

### III 戦後の日本 1. 占領と民主化

戦争は1945年8月15日に終わりました。日本は、アメリカのマッカーサーを最高司令官とする連合軍によって占領され、連合軍総司令部(GHQ)の指導のもとに、改革をすすめました。これを戦後改革とよびます。また、戦争指導者を、戦争犯罪人として東京裁判にかけました。

日本が戦争した背景には、農村の地主・小作関係(寄生地主制)があると考えた GHQ は、農地改革を行い、自作農を増やす政策を命じました。また、三井・三菱などの財閥解体もすすめようとし、独占禁止法を作ることになりました。労働者の地位向上のため、労働組合法など労働三法がつくられ、労働運動が活発となります。教育基本法なども制定され、小学校6年間、中学校3年間の9年間の義務教育となり、男女すべてが同じ教育を受けることができるようになりました。選挙権は、成人女性にも選挙権が与えられました。

改革の中でもっとも重要なのは、憲法を変えることでした。日本を天皇中心の国とであるという立場に立つ大日本帝国憲法に対し、新たにつくられた日本国憲法は、「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」の3つの基本的な精神に立つ憲法で、1946年、吉田茂が内閣総理大臣の時に公布されました。

#### a. 日本の敗戦と戦後世界秩序の形成

##### ①連合軍の対日政策

ア) 1943(S18) [1 **カイロ**] 宣言…連合軍の対日政策の基本決定、第一次大戦前の状態に朝鮮の独立、満州・台湾など中国返還など

イ) 1945 (S20) [2 **ヤルタ**] 会談…[3 **ソ連**] の対日宣戦決定、南樺太・千島列島の譲渡

ウ) 1945 [4 **ポツダム**] 会談→ポツダム宣言発表(米・英・中・のちソ)

- |                      |                                  |
|----------------------|----------------------------------|
| 1)軍国主義の除去            | 2)戦争犯罪人の処罰、民主主義の復活強化、自由と基本的人権の尊重 |
| 3)平和的政府の樹立、そのための軍事占領 | 4)無条件降伏の要求                       |

エ) 1945/8/15 日本、[5 **ポツダム**] 宣言の受諾を決定 = 戦争終結→9月 降伏文書への署名

##### ②戦後の世界

- 1) 反ファシズムの立場から民主主義の拡大・戦争の原因除去をもとめる動き→国際連合の発足
- 2) 戦争末期以降の米ソ超大国→東西陣営間の対立激化
- 3) アジア・アフリカでの民族解放運動の活発化→インドシナ戦争・インドネシア独立戦争  
※朝鮮半島…米ソの分割占領→統一困難に

#### b. 占領と戦後処理

①日本占領…連合軍最高司令官総司令部([6 **GHQ** ]、最高司令官[7 **マッカーサー** ])の指令・勧告により日本政府が統治を行う[8 **間接占領** ]の方式をとる。

形式的には連合軍各国が参加した[9 **極東** ]委員会が最高機関 = 基本方針を決定